

乗り越えよう 熊本地震 2016

医療現場で何が起こったか

発刊にあたって	2
熊本地震 写真集	3
第1章 会員寄稿文 熊本地震体験談	7
本庄内科病院 院長 本庄 弘次	8
医療法人湘悠会 むらかみ眼科クリニック 理事長 村上 茂樹	9
熊本市中央区役所保健子ども課 課長補佐・歯科医師 吉良 直子	10
桜十字病院 院長補佐・リウマチ膠原病内科 中村 正	11
くまもと森都総合病院 内科診療部長 鈴島 仁	12
竹下外科・整形外科医院 院長 竹下 一幸	13
熊本市民病院神経内科 首席診療部長・神経内科部長・リハビリテーション科部長・地域医療連携部長 橋本 洋一郎	14
杉村病院 名誉院長 西川 博	15
おがた歯科 院長 緒方 孝成	16
上村内科クリニック 会長 上村 才司	17
菊陽病院 精神科 橋本 和子	18
医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長 米満 弘一郎	19
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院 理事長・病院長 平田 好文	20
医療法人YCT 駒木小児科クリニック 理事長 駒木 智	21
熊本赤十字病院 国際医療救援部 整形外科 細川 浩	22
砥上内科胃腸科医院 院長 砥上 幸一郎	23
徳永歯科医院 院長 徳永 俊英	24
にいの歯科医院 院長 新納 明則	25
岩本歯科医院 院長 岩本 雅生	26
熊本託麻台リハビリテーション病院 消化器内科 宮瀬 秀一	27
第2章 特集 熊本地震—その時、医療現場は	29
上益城郡医師会 会長 永田 壮一	30
熊本市民病院首席診療部長・神経内科部長 橋本 洋一郎	36
熊本県赤十字血液センター所長 井 清司	42
医療法人社団順幸会阿蘇立野病院理事長 上村 晋一	48
熊本市中央区役所保健子ども課 吉良 直子	54
被災医療機関の復旧・復興に向けた取り組み 保団連災害対策本部	60
第3章 協会震災関連資料	65
協会震災関連活動履歴	66
被災会員アンケートまとめ	71
第4章 保険医のための災害対策必携	75
防災・減災対策(日常的な備え)	77
地震発生時の対応	83
医療機能の復旧・復興に向けた取り組みの一例	84
被災者の保険証、医療費免除等の取り扱い	87
災害時の診療報酬等の請求方法	90
民間医療機関の復旧・復興に向けた補助金及び貸付の特例	97

震災を乗り越えて

医療法人湘悠会 むらかみ眼科クリニック 理事長
村上 茂樹

(序編) 宇城地区では、4月14日(木)午後9時半前のM6.5の前震、そして、15日(金)の午前零時半頃同様の前震がありました。さらに、16日(土)未明のM7.3の本震に加え、その後の2000回にも迫る余震に加え、さらに追い打ちをかけるような6月からの集中豪雨には本当に困惑しましたが、これらの七難八苦を無事に乗り越え、奇跡的に建物の損傷もなく、また、院内の医療機器及び手術機器や各種レーザー治療器及び検査機器も無傷で正常に作動し、平常通り継続して診療を続けられていることに心から感謝しています。

(診療・手術編) 震災直後早々に、5年前に仙台で東北大震災を経験された佐渡一成先生(東北大医学部眼科臨床教授・順天堂大学卒)から電話連絡を頂き、「電気か水道のどちらかが通じていれば、どの様な形であっても出来得る限りの範囲で診療を早々に開始し継続することが地域医療を守るために最も大切である」という助言を身をもって実感し、早々に玄関先に「診療中」という表示幕を貼り出し、この言葉を座右の銘として日々診療と手術を絶やまず実施してきました。

4月16日(土)は当院開院20年にして初めて臨時休診体制とし、職員総出で院内の散乱した書類等の整備を行い、月曜からの診療に備えました。そして、4月18日(月)より朝6時から診療をお待ちになる患者様をお迎えし、診療と小手術を早速開始し、4月26日(火)より手術室内での予定手術も無事実施し、今日まで無事に診療と手術を継続しています。

(労務管理編) 開業当初から一貫して患者様を全身全霊で診療するという特攻精神と、日々の朝夕の走り込みと体幹トレでの鍛錬や毎月の護摩修行による心身の錬磨により、率直なところ、恐怖感や生命の危険は全く感じず、当日朝からの診療を平常通り行うことのみで思考を巡らせました。そして、これまで私自身は一度も「疲れた」とか「きつい」といった認識は全く無く、全身全霊で診療と手術、そして医院の運営を継続させて頂いています。

一方で、震災により自宅が被災して自宅の建て直しや大規模修理を余儀なくされるスタッフも多く、また、震災後の長引く余震のために車中泊など慣れない生活環境の中でも休まず医院を支えてくれた職員全員に心から感謝している次第です。

(生活・メンタル編) この震災による厳しい状況や外部からの震災や今後の余震の遷延等に対する様々なマスコミや野次馬からの冷たい評論や批評さえも自分のエネルギーとして、この地で永く診療を継続することで自分の生き方の正しさを今後も証明していきたいと考えています。

そして、この2度に渡る震度7の激震と2000回にも迫る遷延する余震、さらに、集中豪雨による当地での水害に襲われる中で、「もし、この震災と水害を無事に乗り越えることが出来たら、今後の折り返しの20年間は今まで支援頂いた当地域の方々への恩返しのために全身全霊で診療と手術に精進を続けて行こう!」と心から決意致しました。この震災時の誓願は決して忘れないように持ち続けていきたいと思えます。